

<中学生の部>

最 優 秀

「ホームステイが変えた自分」

北杜市立甲陵中学校三年 鈴木 愛子

私は、語学研修に行くまで、何かと積極的になれなかった。学校のクラスで学級委員を決めるときにも、やりたいと思っている気持ちと、目立ちなくないと思っている気持ちが同時に生まれてしまい、すぐに手を挙げる事が出来なかった。そんな自分が嫌になったこともあったが、「もういいや」と積極的になれないことを諦め始めてもいた。

そんな感じで日々を過ごしていた私だったが、二年生の二月に大きな出来事があった。オーストラリア語学研修だ。特にその中でも一番不安だったのはホームステイだった。六日間の研修の中で三日間は夜をホストファミリーの家で過ごし、そのうちの一日は、一日中ずっとホストファミリーと過ごすというものだった。英語の勉強自体は嫌いではなかったが、実際に会話をすると、不安が勝ってしまい、上手く話せないことが多かった。しかも、事前にもらっていたホストファミリーについての紙には、一人のことしか書いておらず、一対一ということにも大きな不安を感じていたのをよく覚えている。

だが、不安だらけで向かえたホストファミリーとの対面式で私を待っていてくれたのはあたたかい笑顔だった。私のホストファミリーはシーラさん（六十歳）という女性の方だった。「welcome!」という言葉と、見た人を安心させてくれるような笑顔で、私の緊張していた心は徐々にほぐれていった。初めのうちは自分から話すことがなかなかできなかった私だったが、そんな気持ちを察してくれたのか、シーラさんはたくさん話しかけてくれた。おかげで、私も話を理解できるようになり、受け応えもなんとかスムーズにできるようになった。

少しずつ楽しく感じはじめた受け応え。でもそれらはすべて、シーラさんが質問などの話を振り、私が答えるものばかりだった。つまり、まだ私から話を振ることがなかったのだ。聞きたいことや話してみたいことはたくさんあるのに。「この英語で合っているのかな」、「間違えていたらどうしよう」などと、様々な気持ちが頭の中を駆けめぐっていた。

そんな時、一つだけ違う気持ちが生まれた。「このままでいいのか。何かと消極的になっている自分を変えたくはないのか」と。すると、いつの間か私は、

自分から話しかけていた。自分でもびっくりするくらい自然に話すことができた。そして、シーラさんが少し驚いた表情を浮かべた後に、嬉しそうな顔で、「Good English!!」と言った時、私は思った。「ああ、繋がった」と。今までの積極的じゃなかった自分に同情してしまうほど、嬉しかった。自分が少し壁を乗り越えただけで、こんなにも楽しく明るい世界を見れるのだと実感した。

一度壁を乗り越えてからは、あんなに不安だったのが嘘のように、いろんなことを話した。終日ホームステイで、シーラさんは大きなスーパーや商店街など、色々な場所に連れていってくれたが、そこで会った人達にも積極的に話しかけることができた。様々な貴重な体験をさせてくれたシーラさんには、本当に感謝している。

別れの日、シーラさんは最後にこう言った。「自分に自信を持って。そうすれば、あなたの進む未来は明るくなるから。」

その言葉は私の心に大きく響いた。私は嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいになって、泣きながら小さく「Thank you」と言うことしかできなかった。

今回のホームステイは、私に「恐れないことの重要性」を教えてくれた。日本に帰ってきてから、私は色んな場面で積極的に動けるようになった。クラスでの仕事を率先して行えるようになったり、様々なコンクールに出たりするようになった。もちろん、忙しくて大変だが、おかげで毎日が充実している。

日本にいるだけじゃ、絶対できないような経験を今回することが出来た。国際交流で成長するのは英語力やコミュニケーション能力だけではない。自分自身の良くない所ととことん向きあえるのだ。将来のために、自分をもっと成長するために、今回のような機会を大切にしたい。